

## 第3回 大塚地区

### まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日 時：令和3年11月28日（日）

午後1時30分～午後4時30分

主 催：蒲郡市

ZoomID: 947 0955 4307

パスコード: 644821

#### プログラム

開会	1：30
事務局から説明	1：35
・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回ワークショップでのご意見 ・ご質問等への回答 ・地区利用型施設再配置プラン案について ・評価の視点 ・本日の検討内容	
(休憩)	2：20
グループ討議	2：30
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

#### <目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 . . . . . 1
- ・ 進め方とスケジュール . . . . . 2
- ・ 第2回ワークショップの結果概要（案） . . . . . 7
- ・ 第2回ワークショップふりかえりシートご意見 . . . . . 13
- ・ ご質問等への回答 . . . . . 18
- ・ 大塚地区の課題と課題解決に向けた方策 . . . . . 26
- ・ 再配置プランの考え方 . . . . . 27
- ・ 大塚地区 地区利用型施設再配置プラン案 . . . . . 28
- ・ 評価の視点 . . . . . 30
- ・ 本日の検討内容 . . . . . 31

## ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

### 蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を参考に大塚地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

# 進め方とスケジュール

## 1

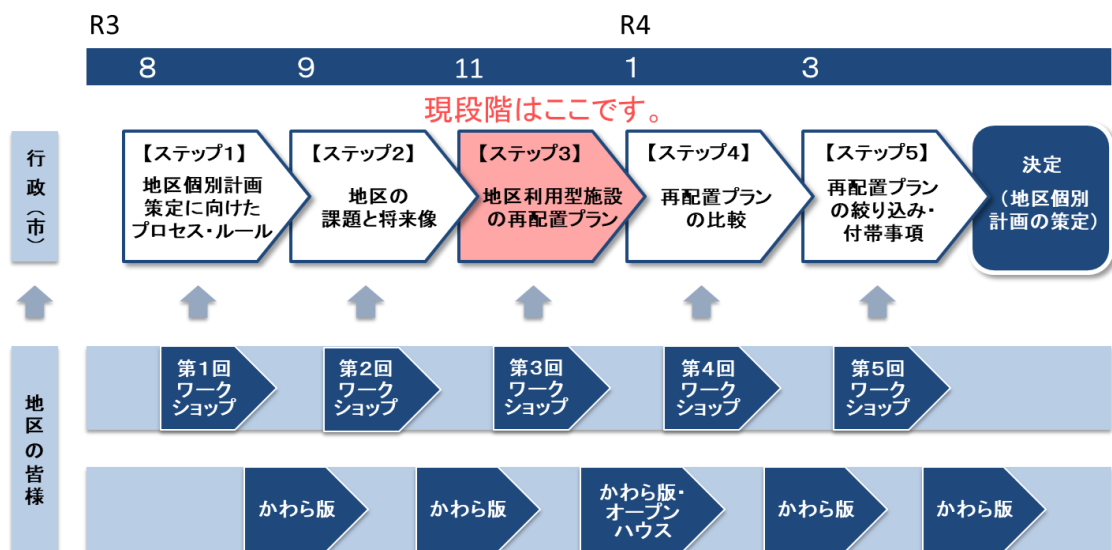
### 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

## 2

### スケジュール（予定）



### 3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版



#### 【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、開催を予定しています。

#### 【かわら版】

地区内の各世帯に配布するチラシです。各回のワークショップ終了後、広報がまごおりとともに配布を行います。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

## 4 ワークショップの概要

- ワークショップは、令和4年3月までに5回開催します。
- 原則、日曜日に開催します。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催します。ご自宅等からの参加が難しい場合は、大塚中学校にて参加できます。
- 事務局は、蒲郡市総務部公共施設マネジメント課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆様にグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 大塚中学校に設置された中継会場から一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

## 5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。話し合いの様子を記録する場面があることをご了承ください。

## 6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

## 7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いいたします。～

なばた めぐみ  
名畑 恵

NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

ふじもり みきひと  
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき  
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

いなば ひさゆき  
稲葉 久之

フリーランス・ファシリテーター

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

## 第2回ワークショップの結果概要（案）

### 1 課題解決に向けた視点について

#### 1) 追加すべき視点

- 子ども、高齢者、子育てお母さん、家族と考えると、「お父さん世代」の視点が抜けている。お父さん世代が地域で集まったり、交流できる場がないようにも思う。
- 一人では外出できない介護が必要な高齢者や障がいをもった方、彼らを支える家族の視点が抜けていると思う。バリアフリーやユニバーサルデザインなどを踏まえた施設ができるとうい。

#### 2) 視点ごとの意見（地区の課題とその解決策）

- ① 多様な人々との交流
- 農家が高齢化して土地が余っている。空いた土地を利用してみんなで農作業をすることで、世代間交流や地域の活性化に繋がるのではないかな。
  - 大塚小学校では日常的に声かけ運動などを行っており、こういった運動が人の輪を増やし、多様な交流や安全安心につながる。多様な交流が可能となるような施設の再編やプログラムの構築が必要だ。
  - 地区にある多様な施設の複合化により、住民の多様な交流につながるのではないかな。
  - 交流の拠点として公園は必要だ。施設の跡地を公園として利用することで多世代交流につながるのではないかな。
  - 高校生、大学生世代の居場所がない。公民館などに彼らが来たくくなるような空間やイベントがあり、他の世代と顔を合わせることが重要だと思う。
  - 公民館は子どもや高齢者の利用が多いイメージがあるが、若者向けのイベントの実施や情報発信を行い、若い世代がもっと交流できる場所になると



よい。

- 若い世代も立ち寄りやすい公民館とするために、新しい名称を若い世代に考えてもらったかどうか。
- 職種や家庭環境、障がいの有無など、多様性のターゲットを想定しながら取り組むのが良いのではないか。
- 外国人が多いので、共生は考えていきたい。
- 公民館では多様な活動を行っているが、外国籍の参加者はいない。外国の方も読めるようなチラシにしたり、目で見えるような情報発信をすれば、情報が伝わるのではないか。
- サークルへの参加は外国籍の方にはハードルが高いので、単発のセミナーが参加しやすいと思う。

② 子育てしやすい環境づくり

- 低年齢児保育や延長保育は必要だ。大塚保育園は大塚西保育園と異なり、18時まで預けることができるので人気があるのだと思う。
- みどり保育園など人気のある保育園の人気の理由を調べるとよい。
- 保育園のお迎えの時間には駐車場がいっぱいになる。大塚西保育園周辺は踏切も狭いので気になる。
- 保育園は統合するのではなく、分散していた方がよい。小学校入学時に2保育園が合わさるというワクワク感もある。縦割り保育では年少から年長まで一緒に育つ利点もあり、様々な選択肢があってもよいのではないか。
- 小中一貫校の話が出ていたが、保育園や児童館も一体的に整備する必要がある。児童クラブ機能もあるとお迎えが楽でよい。

③ 子ども達の居場所づくり

- 大塚地区には公園が少なく、子ども達の遊び場や居場所も少ないと思う。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

車を利用しなくても行ける距離に低年齢児も利用できるような遊び場が欲しい。

- どんぐり公園があるが、利用者が限定されている。最終処分場の跡地を広い公園にするとよいのではないか。
- 屋外で日陰のある遊び場が欲しい。子ども達だけで遊びに行かせるには人の目や交通の安全も必要だ。また、雨天時にも利用できるような屋根もついているとよい。
- 大塚と相楽の間にある橋丘里山緑地公園は地域で管理して里山整備を行っている。
- 町内のお祭りや神楽、PTA 行事が減ってきている。子どもたちの交流を促す機会を提供していきたい。
- 児童館は遊びの場なので、静かに過ごせる場所も提供してはどうか。
- コロナ禍前は公民館のロビーが子ども達のたまり場になっていた。学校と家以外の居場所として、公民館を安心して集まれる場所、静かに落ち着ける場所として提供したい。
- 学校を放課後に開放してもらえないだろうか。下校してから遊びに行くよりも、そのまま校内で活動する方が安全・安心だ。児童クラブも校内にあるとよい。

### ④ 生涯現役でいられる地域づくり

- 生涯現役のためには自分の趣味を持つことが大事だ。そのために公民館は重要な場である。
- 農業者はお年寄りでも元気だが、サラリーマンが定年後に身体を動かせる居場所が必要だと思う。農業の基盤整備をしっかりとし、退職後のサラリーマンで農業従事者の不足を補うなどしてはどうだろうか。

⑤ 安全・安心

- 下校時間が遅いと街灯の少ない道が暗くて心配だ。
- 道が狭く、安全のために遠回りすることが多い。徒歩でも自転車でも安全に行き来できる街になるといい。
- 西大塚からの通学は小学校低学年には遠く、ガードレールも少ないため危険だ。低学年だけでも通学バスを走らせるなど考慮してもよいのではないか。
- ゲンキーや神明社の交差点など高校生の自転車のスピードが危険だと感じる場所がある。
- 大塚金野線整備後の児童の通学や園児のお散歩が心配だ。もっと安全性の確保できるルートはなかったのだろうか。
- 交通事故の抑止のため、狭い道では基本徐行をするなど、思いやり運転の意識を徹底するべきだ。
- 避難所となる学校は建物が古く、地震の際の安全性が心配だ。津波や高潮の心配もあるので、山側への移転も検討してはどうだろうか。
- 最終処分場跡地の跡地活用として、災害時の避難所はどうか。
- 保育園が老朽化しているので、小学校よりも先に解決したい。

⑥ 利便性の向上

- 公民館にオンライン会議ができるスペースや学生向けの学習スペースがあると、市の中心部まで出向く必要がなくなり、便利になる。
- 新しく整備する公民館には地域の情報が手に入るようなお知らせコーナーが欲しい。
- 公民館のサークル活動で市外の先生を呼ぶ場合、利用申請は地区内の生徒が行っている。市民会館などでも同様なので不便だ。
- 外国人向けの日本語教室を東大塚いこい会館で開催しているが、利用者も

広域からくるので公民館や中央の施設で開催するのが適切だと思う。他の活動と利用が重なることもあり不便だ。

- 商業施設の誘致に取り組んでもよいのではないか。一方で、渋滞や住民とのトラブルなどへの懸念もある。
- 公共施設を考えるうえでアクセスのしやすさは大事だ。そのためには、くるりんバスの運行頻度やバス停の位置だけでなく、ネット予約の導入など新しいサービスも検討できるとよい。
- 地域の魅力は感じているが、車がないと移動できない。くるりんバスの充実など基礎インフラを向上させたい。児童の登校などにも利用できるのではないか。

⑦ 効率的な施設配置

- 西大塚地区の方は施設が遠く不便な面が多いのではないか。小学校は地域の真ん中に整備するなど、大塚地区全体の中で利用しやすい場所に施設を整備できるとよい。

## 2 その他

【施設に関するご意見】

- 大塚は保育園から中学校まで同じコミュニティのため、仲が深まるというメリットもあるが、小中一貫校にすると、子どもの交友関係が限られてしまうし、いじめなどがあった場合、逃げ道がなくなってしまうのではないか。クラス替えなどで空気を変えることも大切だ。
- 公民館は今の位置が地区内のバランスが良くよいが、使われ方に工夫が必要だ。
- 新しく保育園を整備するなら、休耕地や竹林を活用した特色のある保育園にした方がよい。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 保育園は老朽化しており、2園から1園にすることは理解できるが、地区の配置バランスを考え、新たな場所に敷地を広くして建替えたほうがよい。保育園の再編に伴い、小中学校や公民館も含めて一体的に整備するとよいのではないか。

### 【まちづくりについて】

- 今後の大塚金野線の整備に伴い、農業基盤の整備や公共施設の再配置を含めたまちづくりができないか。現在の敷地は宅地化などを検討してもよい。
- 若者にグランピングなどアスレチックな趣味が流行している。山や海など自然を生かした地域づくりを行うことで、若者の定住促進や移住につながる。目の前に海があるのに、海関係のものが何もない。

### 【ワークショップ・計画策定の進め方について】

- 人口減少を前提とした計画となっているが、減少ばかりの考え方ではさみしい。人口を増やすなどプラスのイメージを持った計画も考えていきたい。
- 施設ごとにランドデザインの説明があったが、それらを総合的に考えたランドデザインはないのか。
- 子育て世代の生の声をワークショップにつなげたい。意見を拾う場を持ってほしい。
- 「②子育てしやすい環境づくり」「③子ども達の居場所づくり」という2つの項目を重点項目として評価するのがよい。子育てしやすい地域になることで、若い家族世帯が増えれば地域が活性化し、高齢者もいきいきする。

### 【質問】

- 小中一貫校の内容を詳しく知りたい。単に敷地が同じになる、とはどのような違いがあるのか。保護者同士で話している中ではあまり必要性を感じたことがないので、メリットデメリットについて話を聞きたい。

## 第2回ワークショップ ふりかえりシートご意見

### 1 今日の議論で良かったこと

- 2回目のワークショップであり、メンバー同士慣れてきて、活発な意見交換ができたこと。司会者が的確明瞭に発言者の要旨をまとめて、発言者のフォローをして、会議を盛り上げたこと。
- 良かったのは、大塚の人が日頃思っている事が聞いてもらえたことだと思います。1回目、2回目で出た意見は身近でよく聞くことです。みんな思っていることさらに言う事でもないと思っています。だから、いい機会だと思います。それと年が違う人の話は、生活状況も違うので私の気が付かないことが聞いて良かったです。
- 今回もオペレーターの方がとても上手に進行をしていたと思った。若い世代の流出を防ぐために若い人の意見を尊重したり、福祉施設に通うのが必要な方が過ごしやすい町にするとした意見も良いと思った。
- 気にせず意見を述べる事ができたことです。
- 今回は、小中学校規模適正化方針、公民館・保育園のランドデザインの説明が聞いたことは良かったが、グループ討議の時間が少なくなってしまったのは残念でした。蒲郡市内の説明は簡潔に、大塚地区に関わるものは重点的になど、メリハリをつけてもらえたら良かったです。グループ討議の最後に発表があるので、前回のワークショップの振り返りは、参加者が事前に読み込み、または主なところのみ説明でも良いのではないのでしょうか？振り返りシートでの新たな意見や、質問への回答は、説明いただいて良かったです。大塚金野線の整備があることは、グループ討議の前に聞いてよかった。
- 外国人の方で日本語が読めなくて、町内の様子やイベントなどがしっかり伝わってないことに気づかされました。話し合うテーマが絞られており、考えやすくなっていた良かったです。時

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

間がもう少しあれば、もっと色々な意見が聞けたかと思います。

- 十能や相楽から登下校してくる児童が、くるりんバスを使えたら良いのでは？という意見がとても良いと思いました。
- 若い人の感じ方、考え方を少し知ることが収穫であった。一步前に進んだのかなと思いました。
- 各年代等によって、課題や関心事が違い、他者を知る良い機会となりました。
- こどもに安心して遊べる公園などで、橘丘里山緑地公園は涼しいけれど人が少なく、こども一人で行かせるには心配。と言う意見を聞き、夏場の間は毎月草刈りをして保全しているだけでは足りないので、利用できる為の物などや監視出来るカメラなどの設置も必要かも知れないですね。代替案として海陽ヨットハーバー手前の緑地公園は、人目もあり涼めるベンチも設置しており、おすすめスポットだと伺いました。ただ、国道を横切るための交通事故が心配だそうです。国道の大塚駅東交差点は、パトカーや白バイが常に信号無視の取り締まりをしていて、日に何台もの車が止められている現状では納得と言えるでしょう。
- 時間が足りないほど討議が盛り上がった。  
メンバーフル参加では無かったが年齢層いろいろでも話しやすい。  
公民館を利用する330団体と約50講座あると知る（驚きました）。  
初めて聞く 3B 体操を YouTube 検索して観ましたがとても楽しそうでした。（3B 体操とは、「遊び要素」「気軽に」「体に無理なく」をキーワードに老若男女問わず誰でも楽しめるよう考案された健康体操。他人の補助を必要としない生涯現役へのひとつ。）

### 2 内容について言い足りなかったこと

- それぞれの世代により関心のある事は違って来る。子育て世代は育児、教育問題であり、私のような年配の世代では大塚の将来像です。  
私がワークショップに参加したのは大塚金野線と最終処分場問題を公共



## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

施設マネジメント及び災害避難計画に結び付け、大塚の将来像を描くことであり、参加者のみなさんに知ってもらい一緒に考え、議論したかったからです。10年後の大塚はすぐ目の前に来ています。今後のワークショップでももっと掘り下げて話し合いが出来ればと思います。

- 新しい道のことですが、私の知り合いも「丹下川の方にしたほうがいいんじゃないか。なぜ郵便局のところだろう。」とっていました。  
公民館とか、建て替えの時期が来ているのなら、時代に合った、住んでいる人の都合にあった場所に建替えてほしいと思います。
- 海陽グラウンドを活用するといった意見を出したが具体的にはフットサルコート、スケボーする場所などが良いと思った。  
公園を作るといった意見も出したが碧南市の碧南臨海公園のような、どの世代も利用できる公園が良いと思った。
- 情報が行き届いていないことの意見が出たので、チラシだけではなく、大塚公民館の活動内容例えば、どの教室が開かれているのか、どのようなイベントが行われているかなど、その内容をHPに記載したらどうでしょうか？
- 課題解決に向けた視点の整理では、『介護が必要な人や弱者の配慮』が抜けていたことを他のグループから教えてもらえて良かった。コミュニティ施設の事例集で、老人福祉施設、福祉老人施設の複合施設もあるので、解決策としての糸口にもなるかもしれない。  
十能の福祉老人施設がなくなってしまった。大塚地区で、福祉老人施設を利用されている人の意見も次回聞けたらいいと思う。
- 海を見下ろせる辺りに、東三河ふるさとの様な公園があるとよい。(規模は小さくてもよく、中学生以上でも楽しめる場所がほしい。) 屋内アスレチックや、トランポリンなど市内にない遊び場があってもいい。  
公民館内の図書館をもう少し広くして、勉強もできる場所を提供すれば、利用者が蒲郡図書館への移動時間分が短縮され嬉しいと思う。(豊川ハートフルに行く子もいる)



## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

小学校の運動会は、北部小学校の様にすると地域一体化で楽しめると思います。通学団ごとにテントがあり、通学団リレーの時は特に声援も大きくなり盛り上がります。競技によっては、70代80代でも参加可能です。安全面では、街灯が少ないのが気になります。街路灯又はソーラーライトがあるとよい。

公園の砂場の整備、安全のためにドア付きフェンスで囲ってあげるとよい。動物のトイレにもならず済むと思います。

- もっと若い世代の方の意見を沢山聞いた方が良いのでは？と思いました。今子育てをしている方の方が、リアルな話しを聞く事が出来ると思います。
- 過去の種々の制度、考え方、慣習に囚われず取捨選択して方法を、考えたいと思います。
- 従来「公共施設」が担ってきた役割とは違う「異質なモノ」を掛け合わせ新たなサービスや付加価値を創造すると良いと思います。  
Ex) 観光×教育、健康×環境、福祉×商業、文化×農業、防災×芸術
- 公民館の使用などで、身体弱者の視点から見直さなければ成らない事を、別のチームの方から伺って、改めて高齢化してゆくこの地域において、焦点を当てていかなければ成らないのかもと思いました。
- ①交流について：公民館だよりについてですが外国人向けに英語版も作ってはどうか？（※日本語入力された文章を変換してくれるソフトなど利用したら出来そう）  
②子育て環境について：地域（県、国）により子育てには色々特色があると思うので良い部分を取り入れる。  
③子どもの居場所：集団の輪に入れない子供に寄り添う場の必要性（子供のよい部分を伸ばす理解）  
施設スタッフに外国語の分かる方を増やす  
④生涯現役：引退された方々の持つスキル（資格や特技）を十分に発揮出来る場を提供する

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

⑤安心安全：大塚駅前から十能交差点までの歩道に柵を設けて欲しい。

登下校する子供や歩行者が車道に飛び出そうで怖い。

自転車交通ルール徹底（飛び出し、止まれ無視が多い）

街灯が少ない場所があり夜道の危険性あり

通学路で周りに民家がない場所が暗いと思います。

⑥利便性：大塚西保育園Pに入りづらく駐車スペースが少ない

将来的に施設Pは一箇所ではなく2～3箇所に分散させ渋滞緩和を希望

⑦施設設備：自力で動けない方への配慮を、、、

ハンディキャップを持つご家庭を知る

例：最低限区役員（総代、区議員、班長）が把握出来る様に地図上に印を

つける（防災時に優先避難救護が出来る様に）

休耕地利用 土地を持つ農業者以外の方でも家を建てれる様にする

## ご質問等への回答

- 人口減少を前提とした計画となっているが、減少ばかりの考え方ではさみしい。人口を増やすなどプラスのイメージを持った計画も考えていきたい。

第1回ワークショップで配布した「大塚地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ資料集」のp.9～11にて蒲郡市及び各地区の人口の見込みをお示ししました。これらのデータは、人口減少対策に取り組むことで合計特殊出生率（女性1人が出産する子どもの数の平均値）が2.07まで上昇する前提で設定をした「蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」における目標値をベースに算出しており、2060年の市全体の目標人口を61,000人としています。今年6月に策定した第五次蒲郡市総合計画においても、人口ビジョンにおける上記目標を達成するため、2030年における目標人口を77,000人と設定しました。なお、直近の蒲郡市の合計特殊出生率は1.40(2013～2017年)となっています。

一方、人口減少対策を講じず、現況が続いた場合の人口見込みについては、国立社会保障・人口問題研究所が推計を行っており、2060年の市全体人口は約57,000人まで減少すると見込まれています。

このように、人口減少対策に取り組むことにより人口の減少を緩やかにすることはできますが、減少自体は全国的な傾向となっており、避けて通ることはできません。

蒲郡市では、人口減少による将来負担軽減の観点だけではなく、「住み続けたい大塚地区、住み続けられる大塚地区」のため、住民の皆さまのご意見を伺いながら計画検討を行ってまいります。参加者の皆さまにおかれましても、人口減少対策の必要性についてご理解いただき、将来の大塚地区のために積極的なご発言をいただければと思います。

- 施設ごとにランドデザインの説明があったが、それらを総合的に考えたランドデザインはないのか。

市全体における総合的なランドデザインとしては、今年6月に策定をした第五次蒲郡市総合計画が挙げられます。総合計画で示している目標や計画を実現するために、教育や保育といった観点から施設ごとの考え方を示したものが、前回のワークショップでお示しをしたランドデザインになります。

これらの方針と地域の課題等を総合的に判断し、大塚地区における地区利用型施設の将来のあり方を示すのが今回策定する地区個別計画となります。計画の検討にあたり、地区の実情をより反映したものとするため、ワークショップの開催やかわら版の発行など住民の皆さまのご意見を伺うための取り組みを行っています。

- 子育て世代の生の声をワークショップにつなげたい。意見を拾う場を持ってほしい。
- もっと若い世代の方の意見を沢山聞いたほうがよいのでは？と思いました。今子育てをしている方の方がリアルな話を聞くことができると思います。(ふりかえりシートより)

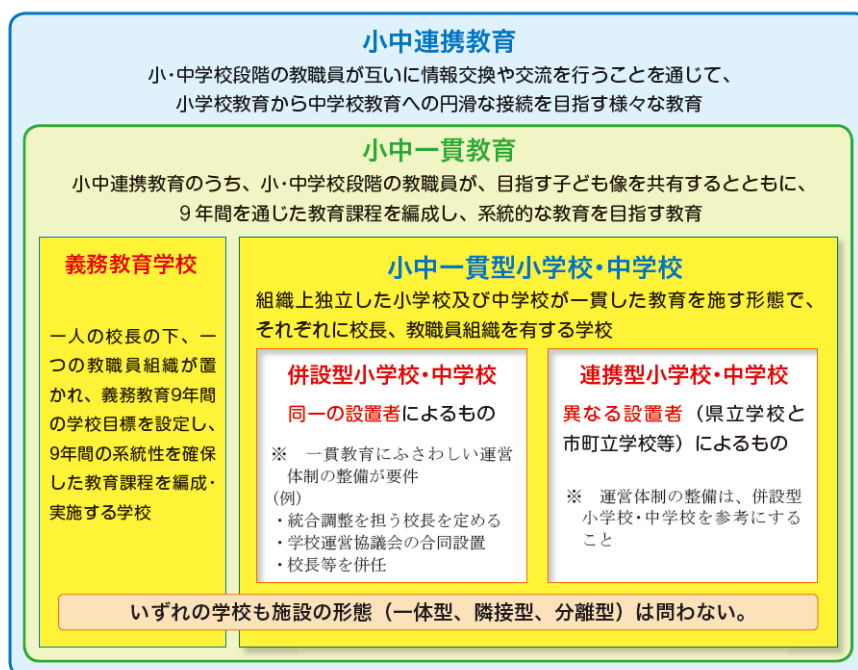
事務局としましても若い世代の方のご意見は重要であると認識しており、子育て世代の声も反映させるため、ワークショップ参加者を募集する際には、保育園や小中学校の保護者の皆さまに直接お声掛けをさせていただきました。

また、ワークショップ参加者以外の方にもご意見を伺うため、今後、大塚地区にお住まいの方を対象にオープンハウス(パネル展示型説明会)を開催する予定です。オープンハウスは、ワークショップの検討状況を説明させていただくとともに、簡単なアンケートを実施し、本日皆さまに議論していただく再配置プラン案についてご意見をいただくもので、他の地区では保育園でも開催しています。若い世代の方に多くご参加いただけるよう、開催方法や周知方法を検討してまいります。

- 小中一貫校の内容を詳しく知りたい。単に敷地が同じになるとはどのような違いがあるのか。保護者同士で話している中ではあまり必要性を感じたことがないので、メリットデメリットについて話を聞きたい。

現在、小中学校では、同じ地区であっても、各学校で教育目標を定め、それぞれの校種の年限（小学校6年、中学校3年）の中でどのように子どもたちを育てていくかを検討し、教育活動を行っています。

一方、小中一貫教育とは、小中学校の教職員が目指す子ども像を共有し、9年間のつながりを確保した教育課程を編成する教育制度のことで主に以下の体系に整理することができます。



「栃木県小中一貫教育ガイドライン」より抜粋

小中一貫教育のメリット、デメリットについては、次のページに整理していますので、ご確認ください。

### メリット

- 教育方針の一本化

学校教育を「縦（小中一貫）のつながり」で行うことにより、全教職員が共通した「15歳の子ども像」を描きながら教育を行うことができ、9年間を通じて安定した指導ができるようになります。

また、同一敷地内に小中学校を併設する場合には、その学校を「義務教育学校」とし、一人の校長先生のもと、小学校1年生から中学校3年生までの子どもの指導を全職員で行うことも可能です。

- 教員の相互乗り入れ指導

いわゆる「中1ギャップ」の解消のために、中学校の先生が小学校の授業で指導したり、小学校の先生が中学校の授業で指導したりするなど、指導方法の変化を段階的に行うことができます。

- 異学年交流の活性化

異なる学年の子ども同士と一緒に活動をする機会を9年間の中で計画的に行うことにより、子ども達の他者のために行動する意識が高まり、「自己有用感」の向上にもつながります。また、身近に「良き模範」である上級生がいることにより、子ども達自身が「15歳の自分」をイメージしやすくなります。

### デメリット

- 気持ちの切り替え時期の減少

小学校と中学校の節目がなくなり、新たな気持ちの切り替えや進学の実感がなくなる可能性があります。

- 教職員の多忙化

特に小中一貫教育の導入期には、小学校・中学校間の調整が必要になり、そのための業務が増加することにより、教職員の多忙化につながる考えられます。

少子化に伴い、今後市内のいくつかの小中学校が小規模校となることが想定されており、教育委員会では大塚地区の対応策として、施設一体型小中一貫教育の導入を掲げています。現在どのような形態を採用すべきか、全市的な小中一貫教育の導入も含めて検討している最中です。

- 公共施設を考えるうえでアクセスのしやすさは大事だ。そのためにはくるりんバスの運行頻度やバス停の位置だけでなく、ネット予約の導入など新しいサービスも検討できるとよい。

運行経路や停留所は地元の協議組織である「地区公共交通協議会」において検討しています。また、地域の状況にあわせて、随時見直しを図っています。現在くるりんバスは定時定路線型で運行しており、バス停でお待ちいただければダイヤに従って運行するバスに乗車できます。予約の必要なデマンド型のバスの導入につきましても、要望があれば地区の協議会にて協議を行い、検討させていただきます。

- 西大塚からの通学は小学校低学年には遠く、ガードレールも少ないため危険だ。低学年だけでも通学バスを走らせるなど考慮してもよいのではないか。
- 地域の魅力は感じているが、車がないと移動できない。くるりんバスの充実など基礎インフラを向上させたい。児童の登校などにも利用できるのではないか。

#### 【通学における安全対策について】

登下校時に利用する通学路は、児童が安全に通学できるよう、各学校において信号機や歩道の有無、暗い道ではないか、程よく人通りがあるかといった観点から設定しています。

また教育委員会では、小中学校が主体となり毎年保護者や地元自治会と連携し、通学路の危険個所の抽出を行っています。抽出された危険個所は教育委員会や学校、警察、道路管理者等で構成される通学路安全対策連絡協議会において点検、対応策の検討が行われ、必要に応じて歩道整備や注意看板、信号機の設置などの対応を行います。大塚地区においても、いただいた要望をもとに注意喚起の看板や区画線を設置するなどの対策が取られています。

今後も通学路の安全確保のため、関係機関と連携して児童生徒が安全に通学できるよう通学路の安全確保の取り組みを行ってまいります。





## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### 豊明市の状況

実施地区	沓掛小学校区内の「若王子地区」（小学校まで片道約4km）
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスを若王子地区の通学に活用</li> <li>・利用料金は無料（従来より中学生以下の乗車は無料だった）</li> <li>・導入にあたって学校の始業時間に間に合うよう始発を早めたり、運行経路の改正を行った</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のんびりできるようになり、心にゆとりができた</li> <li>・公共交通機関の利用機会ができ、公衆道徳を学ぶ機会が増えた</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校時間とバスの時間が必ずしも一致するとは限らない（下校時は従来通り徒歩）</li> <li>・バス利用により歩く距離が減ったため、児童生徒の体力低下を指摘する声がある</li> </ul>

※コミュニティバスの再編に伴い該当路線が廃止されたため、現在は老人福祉センターの送迎バスとスクールバスを共用して運行しています。

いただいたご意見のように、コミュニティバス等の路線バスをスクールバス代わりとして活用している自治体もあります。ひめはるくるりんバスの利用については運行経路や運行日数、乗車定員などの点から現時点では難しい状況ですが、今後必要性に応じて教育委員会や地区公共交通協議会とともに活用可能性について検討してまいります。

- 自力で動けない方への配慮のため、災害時に優先避難ができるよう地区役員が把握できるように地図上に印をつけるなどしてはどうか。（ふりかえりシートより）

ご提案いただいた自力で動けない方への災害時支援は、蒲郡市でも既に「避難行動要支援者支援制度」として実施されています。

障害をお持ちの方や要介護者、ひとり暮らし高齢者等の要支援者の名簿を作成し、同意を得られた方については、自主防災会や民生委員等の避難支援関係者に提供を行っています。平時より情報共有や声かけを行うことで、避難誘導や安否確認、避難所での生活支援を円滑化し、安心して暮らすことができる地域づくりを目指しています。

- 大塚地区には公園が少なく、子ども達の遊び場や居場所も少ないと思う。車を利用しなくても行ける距離に低年齢児も利用できるような遊び場が欲しい。
- 施設の跡地を公園として利用することで多世代交流に繋がるのではないかな。

市が管理する広場には、都市公園等のほか、市民のスポーツ振興のために設置される運動広場や、子ども達の外遊びの場として設置される児童遊園地等の施設があります。地区内に立地する広場について以下の地図にまとめましたので、検討の参考として下さい。

なお施設跡地の活用方法については、付帯事項（施設再配置の決定後に配慮すべき事項）として、第5回ワークショップにて再度ご意見を伺う予定です。



大塚地区の課題と課題解決に向けた方策

視点の整理		課題解決に向けた方策		
視点	WSでいただいたご意見要約、地区の課題	施設の再配置を通じた解決策としていただいたご意見	再配置を通じた解決策	運営の工夫による解決策としていただいたご意見
① 多様な人々との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設が集合することで、多世代交流ができるとよい。</li> <li>介護が必要な高齢者、障がい者も使いやすい施設ができるとよい。</li> <li>異年齢の交流は子ども達にとってよい効果がある。</li> <li>外国人が多い地域なので「共生」を考える必要がある。</li> <li>子ども達に対し農家や地域の魅力を発信し、地元への愛着を育むことで、将来も留まってくれるとよい。</li> <li>親世代が地域で集まったり、交流できる場がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区にある多様な施設の複合化により、住民の多様な交流につながる。</li> <li>1つの場所で保育園から中学生まで世代間交流ができる施設となるとよい。</li> <li>外国人が多いので、共生を考えていきたい。</li> <li>保育園は、子ども達や親の交流を増やすために合併してもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①多様な方々の交流の場の創出</li> <li>②施設の複合化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者向けのイベントの実施や情報発信を行い、若い世代がもっと交流できる場所になるとよい。</li> <li>公民館では多様な活動を行っているが、外国の方も読めるようなチラシにしたり、目で見えるような情報発信をすれば、情報が伝わるのではないか。</li> <li>立ち寄りやすい公民館とするために、新しい名称を若い世代に考えてもらったらどうか。</li> <li>空いた土地を活用してみんなで農作業することで、世代間交流や地域の活性化に繋がるのではないか。</li> <li>バリアフリーやユニバーサルデザインなどを踏まえた施設ができるとよい。</li> <li>小学校の運動会は地域と共に実施できるとよい。</li> </ul>
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>低年齢児保育や延長保育ができる保育園にしてほしい。</li> <li>児童クラブは1カ所にまとまると便利だ。</li> <li>保育園と小学校が一体化するとお迎えも安心で楽だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園2園を集合することで、低年齢児保育や保育時間などサービスが向上するとよい。</li> <li>小中一貫校の話が出ていたが、保育園や児童館も一体的に整備する必要がある。児童クラブの機能もあるとお迎えが楽でよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③保育機能の充実</li> <li>④子育て関連施設の集合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り保育では年少から年長まで一緒に育つ利点もある。</li> <li>みどり保育園など人気のある保育園の人気の理由を調べるとよい。</li> <li>保育園から小学校、中学校へと環境が変わる良さもある。</li> <li>保育園は統合するのではなく、分散していた方がよい。</li> </ul>
③ 子ども達の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の様々な人材が子ども達の活動に力を添えられるとよい。</li> <li>放課後や長期休暇中の子ども達の居場所が欲しい。</li> <li>大塚地区には公園が少なく、子ども達の遊び場や居場所も少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに学校と家以外の場所として、公民館で安心して集まれる場所、静かに落ち着ける場所を提供したい。</li> <li>車を利用しなくても行ける距離に、低年齢児も利用できるような遊び場が欲しい。</li> <li>児童クラブも学校内にあるとよい。</li> <li>公民館に学生向けの学習スペースがあると便利だ。</li> <li>屋外で日陰のある遊び場がほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤子どもの居場所の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの交流を促す機会を提供していきたい。</li> <li>児童館は遊び場なので、静かに過ごせる場所も提供してはどうか。</li> <li>学校を放課後に開放してもらえないだろうか。</li> </ul>
④ 生涯現役でいられる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業の高齢化が深刻だが、高齢者も現役で活躍している。</li> <li>高齢者のことを考えるとくるりんバスがもっと便利になるとよい。</li> <li>高齢者にとっては公民館が地域の繋がりを生む拠点だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館には高齢者向けの教室があり、ぜひ活用してほしい。</li> <li>生涯現役のためには自分の趣味を持つことが大事だ。そのために公民館は重要な場である。</li> <li>引退した方のスキルを発揮できる場を提供する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥高齢者が活躍できる場所の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業者はお年寄りでも元気だが、サラリーマンは定年後に身体を動かせる居場所が必要だと思う。</li> <li>農業の基盤整備をしっかりとし、退職後のサラリーマンで農業従事者の不足を補うなどしてはどうか。</li> <li>高齢者のことを考えると、くるりんバスの本数や路線をふやすのはどうか。</li> <li>くるりんバスの運行頻度やバス停の位置だけではなく、ネット予約の導入など新しいサービスを検討できるとよい。</li> </ul>
⑤ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>大塚小の周辺まで災害の危険地域になっている。</li> <li>災害時を考慮した施設配置が必要だ。</li> <li>施設が老朽化している。</li> <li>避難所となる学校は建物が古く、地震の際の安全性が心配。</li> <li>交通事故や防犯の面で通学路の安全性が心配だ。</li> <li>下校時間が遅いと街灯の少ない道が暗くて心配だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高台などの安全な場所に公共施設を建ててほしい。</li> <li>避難所となる施設は、津波や高潮の心配もあるので、山側への移転も検討してはどうか。</li> <li>避難所は複数あった方が、多くの人々が避難しやすい。</li> <li>新しい公共施設には安全に通える道路を整備してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦避難所・避難場所の適正配置</li> <li>⑧交通安全に配慮した施設配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故防止のため、狭い道では基本徐行をするなど、思いやり運転の意識を徹底するべきだ。</li> <li>低学年だけでも通学バスを走らせるなど考慮してもよいのではないか。</li> <li>最終処分場跡地の跡地活用として、災害時の避難所はどうか。</li> </ul>
⑥ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の再編を考えるうえで駐車場は重要だ。</li> <li>保育園のお迎えの時間には駐車場がいっぱいになる。</li> <li>施設が東端によっており、配置のバランスが悪い。</li> <li>買い物、交通が不便である。</li> <li>地域の魅力は感じているが、車がないと移動ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園と公民館の一体化ならば駐車場が十分確保できるのではないか。</li> <li>小学校は地域の真ん中に整備するなど、大塚地区全体の中で利用しやすい施設を整備できるとよい。</li> <li>公民館は今の位置が地区内のバランスが良くよいが、使われ方に工夫が必要だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨十分な駐車スペースの確保</li> <li>⑩誰もが利用しやすい施設配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しく整備する公民館には地域の情報が手に入るようなお知らせコーナーがほしい。</li> <li>くるりんバスの充実など基礎インフラを向上させたい。児童の登校などにも利用できるのではないか。</li> <li>公民館にオンライン会議スペースや学習室があると市の中心部まで行く必要がなくなり、便利だ。</li> </ul>
⑦ 効率的な施設配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の複合化によって効率化したほうがよい。</li> <li>子どもの数が減っており、問題がないのであれば小中一貫にしたり、保育園を統合してもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園は老朽化しており、地区のバランスを考え、2つ合わせて新たな場所に敷地を広くして建て替えた方がよい。</li> <li>保育園の再編に伴い、小中学校や公民館も含めて一体的に整備するとよいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑪施設総量の縮減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊橋や新城では学校と公民館が併設されており、夜は体育館を地域の人が使うなど上手に使っていると聞くので、大塚でも見習うとよい。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の跡地を公園として利用することで多世代交流につながる。</li> <li>施設跡地は宅地化などを検討してもよい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>海と山が近く自然が多いのが魅力だ。公共施設も自然のよさを活かせば魅力につながるのではないだろうか。</li> <li>今後の大塚金野線の整備に伴い、農業基盤の整備や施設の再配置を含めたまちづくりができないか</li> </ul>

## 再配置プランの考え方

再配置を通じた課題の解決策として整理した11項目を用いて、それぞれコンセプト（特徴）の異なるA～Dの4つの再配置プラン案を作成しました。

すべての課題を満実に解決する案を作成することは困難ですが、複数のプランを比較しながら、より多くの課題を解決する再配置プランはどういったものか、検討していく必要があります。

図：再配置を通じた解決策と再配置プラン案の関係性

再配置を通じた解決策	再配置プラン案			
	A案	B案	C案	D案
① 多様な方々の交流の場の創出	●	○		○
② 施設の複合化	●	○	○	○
③ 保育機能の充実	○	○	○	●
④ 子育て関連施設の集合	○		●	
⑤ 子どもの居場所の確保	○	○	○	○
⑥ 高齢者が活躍できる場所の整備	○	○	○	○
⑦ 避難所・避難場所の適正配置		●	○	○
⑧ 交通安全に配慮した施設配置		○	○	○
⑨ 十分な駐車スペースの確保			○	
⑩ 誰もが利用しやすい施設配置		○	●	●
⑪ 施設総量の縮減	○	○	○	○

※ 各プランを作成するために用いた解決策を○、その中でも特に有効だと考えられる解決策を●としています。



## A 多世代交流の拠点をつくるプラン

### 【重点を置いた解決策】①②

- 現在の大塚中学校の敷地に、大塚中学校、大塚小学校、大塚公民館、大塚保育園、大塚西保育園、児童クラブの機能を集め、大塚地区の交流拠点をつくります。
- おおつか児童館は現地で適切に維持していきます。

## B 災害時の避難所を確保するプラン

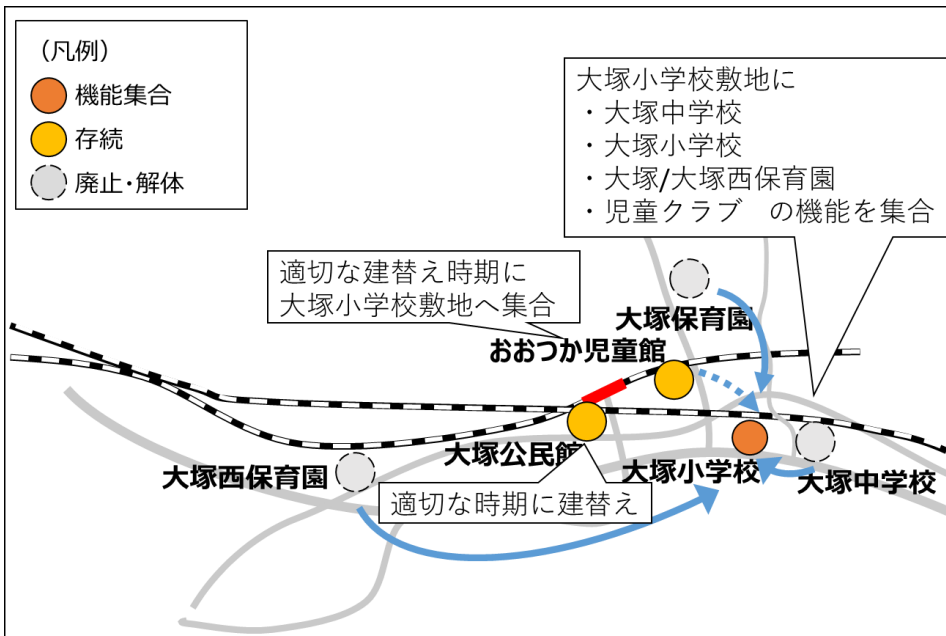
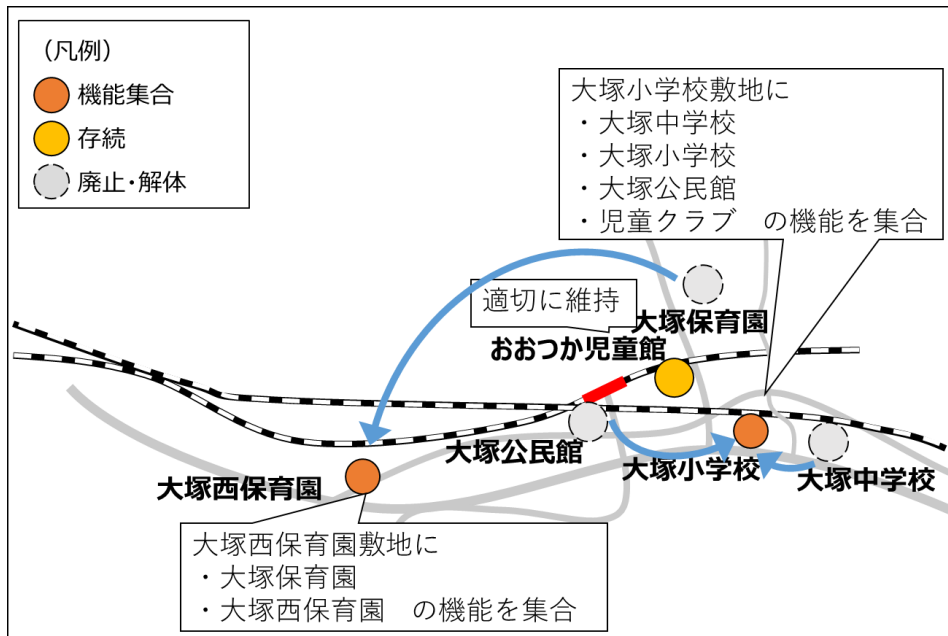
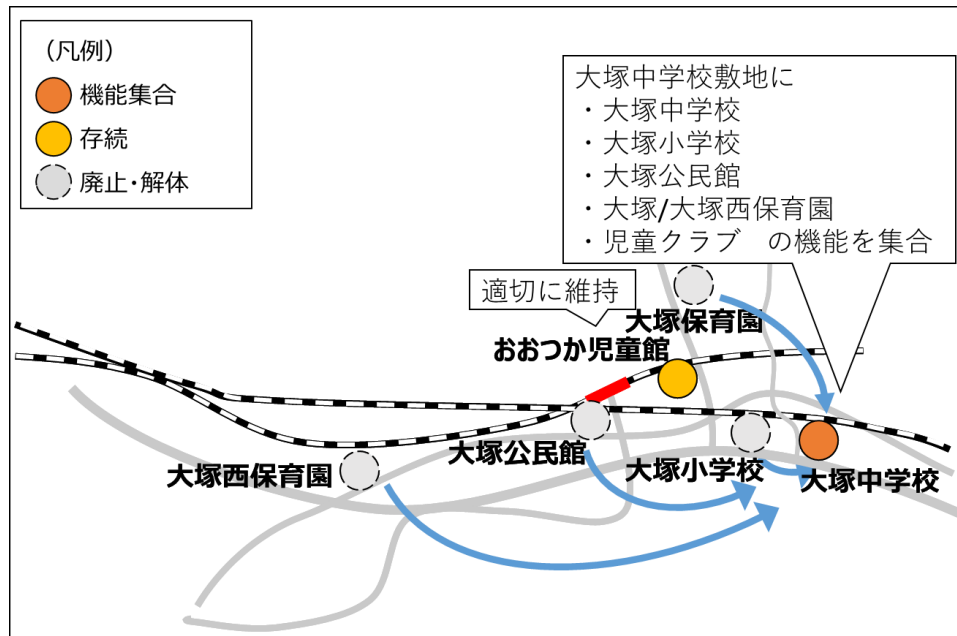
### 【重点を置いた解決策】⑦

- 現在の大塚小学校の敷地に、大塚中学校、大塚小学校、大塚公民館、児童クラブの機能を集め、地域に開かれた教育の拠点をつくります。
- 大塚西保育園の敷地に、大塚保育園、大塚西保育園の機能を集合します。
- おおつか児童館は現地で適切に維持していきます。

## C 子育ての拠点をつくるプラン

### 【重点を置いた解決策】④⑩

- 現在の大塚小学校の敷地に、大塚中学校、大塚小学校、大塚保育園、大塚西保育園、児童クラブの機能を集合し、子育ての拠点をつくります。
- 大塚公民館は現地で維持し、適切な時期に建替えます。
- おおつか児童館は適切な建て替え時期に大塚小学校敷地へ集合します。



### 特徴

- 中学校、小学校、公民館、保育園が一か所に集合することで、大塚地区の多様な交流を生む拠点ができる。
- 保育園から中学校が1ヶ所にあることで合同での行事実施や異なる年齢間でのつながりが期待できる。

【関連する解決策】①②③④⑤⑥⑪

### 特徴

- 中学校、小学校、公民館が集合するため、学校を起点とした地域に開かれた教育の拠点が整備される。
- 大塚西保育園敷地に保育園が集合することで、地域の西側に施設を維持することができ、避難所として活用できる。

【関連する解決策】①②③⑤⑥⑦⑧⑩⑪

### 特徴

- 地域の中心にある公民館が現地で維持されることで、アクセシビリティが保たれる。
- 中学校、小学校、保育園が集合する上、将来的に児童館も移転することで、子育ての拠点が整備される。

【関連する解決策】②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

### 課題

- 地区の西側住民のアクセシビリティが低下する。
- 現在避難所に指定されている施設が全て東端に寄ること、避難に時間がかかる。

### 課題

- 保育園と児童クラブが離れてしまうため、お迎えの負担が増える。
- 大塚西保育園は現状でも駐車場が少ないため、2園集合に伴い新たな駐車場の確保が必要である。  
 ⇒大塚西運動広場を駐車場として活用できないか検討します

### 課題

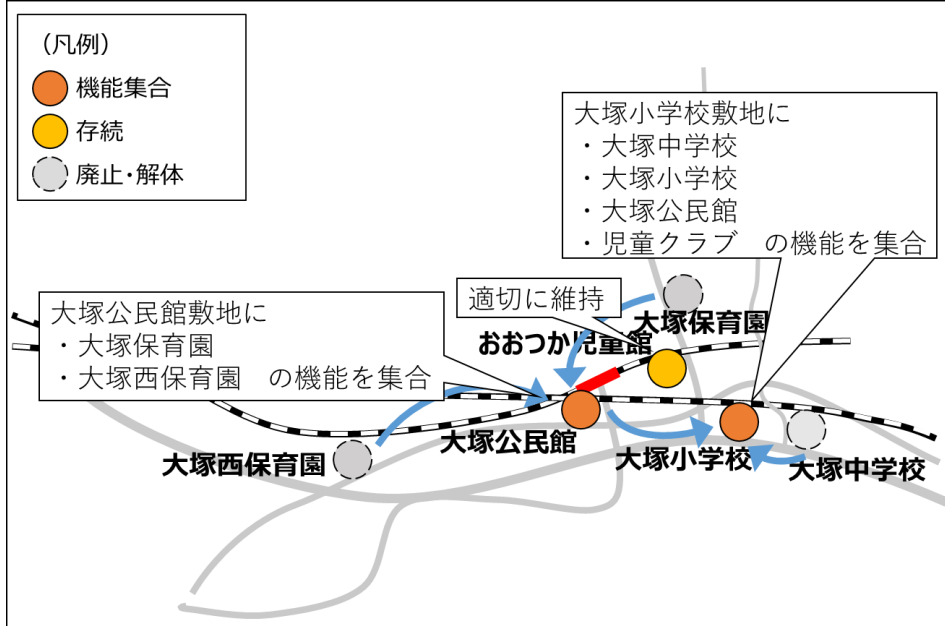
- 小中学校と公民館が離れてしまうため、多世代交流を創出するための工夫が必要である。

# D

## 子育てにおける利便性向上を図るプラン

### 【重点を置いた解決策】③⑩

- 現在の大塚小学校敷地に、大塚中学校、大塚小学校、大塚公民館、児童クラブの機能を集合します。
- 大塚公民館敷地に、大塚保育園、大塚西保育園の機能を集合します。
- おおつか児童館は現地で適切に維持していきます。



### 特徴

- 駅前かつ地域の中心にある公民館敷地が活用できる。
- 公民館敷地に保育園が集合するため、お迎えの負担が軽減される。

### 【関連する解決策】①②③⑤⑥⑦⑧⑩⑪

### 課題

- 保育園の移転に伴い、移転先の周辺住民の生活環境の変化が懸念される。
- 現状の公民館敷地では、駐車場の確保が課題である。  
⇒産子山児童遊び場を駐車場として活用できないか検討します。

## (参考) 小中学校規模適正化方針/グランドデザインの考え方について

### 〈小中学校規模適正化方針〉

#### 【標準規模・標準配置】

	標準規模	標準配置	
		通学距離	通学時間
小学校	12~18 学級	概ね 4 km	1 時間以内
中学校	9~18 学級	概ね 6 km	1 時間以内

→市の標準規模を下回る規模の学校は適正化に向けた検討を行う

#### 【地区内の適正化検討対象校とその対応策】

- 大塚小学校  
[令和2年] 普通学級数：12 学級 児童数：269 人  
[推計(令和22年)] 普通学級数：6 学級 児童数：205 人
- 大塚中学校  
[令和2年] 普通学級数：6 学級 児童数：135 人  
[推計(令和22年)] 普通学級数：5 学級 児童数：108 人

→方針：「小中一貫教育の導入」を行い、柔軟かつ大胆な教育環境を構築

将来推計では、小学校は全学年1学級、中学校は1学級の学年が発生する規模になることが見込まれています。三谷地区との合流する手法を用いれば、規模自体は適正化される可能性はあるものの、通学距離の基準を超えるエリア（相楽町地区周辺）がある等の課題が発生します。

そのため、小中学校が一緒になる小中一貫教育を導入し、異なる学年の繋がりで多様性を育むといった新たな教育体系を構築し、「地域に根差した学校」づくりを推進していきます。小中一貫教育の制度体系・手法については、次のとおりです。

- 施設一体型の小中一貫型小学校・中学校
- 義務教育学校

なお、「小中一貫教育の形態の選択」については定めず、今後、教育的効果の研究・検討を進めたうえで選択することとします。

### 〈公民館グランドデザイン〉

#### 【目指すべき公民館の姿】

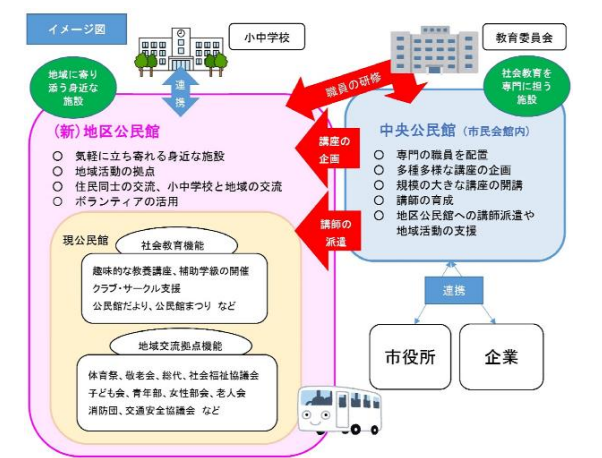
公民館の機能を2つに分け、それぞれの機能を十分に発揮させます。

- ① 社会教育機能(学習機能)を果たす「中央公民館」
- ② 地域交流拠点機能(地域と人のつながり)を果たす「地区公民館」

※ 地区公民館建替えの際は可能な限り小学校との複合化を検討する。

#### 【大塚地区の公民館の配置に関する考え方】

人口規模が小さいが、大塚駅、大塚公民館周辺を地区の中心にして地域の生活圏がまとまっており、近隣の公民館への距離も離れているため、この地区に配置する公民館の数は1館が相当



### 〈保育園グランドデザイン〉

#### 【基本的な考え方】

- 各地区、各保育園で統一した保育サービス（低年齢児保育・延長保育）を実施できるよう適正配置について検討します。
- 基準とする規模は、一人一人のきめ細やかな保育を実現しつつ、健全な成長・育ちの観点から集団保育を保證できる保育園の規模（概ね80~130人程度）とします。

#### 【大塚中学校区における考え方】

- 将来ニーズの予想

	0-5歳児計
2040年時点中学校区内保育園等入所数予想(①+②)※	110
2040年時点中学校区内居住児童の入所ニーズ予想①	120
2040年時点他中学校区の民間園への入所予想②	▲10

- 今後のあり方

- 現在の公立保育園を2園から1園に集約します。2040年時点の中学校区内保育園等入所数予想は110人であり、基準とする規模内です。
- 大塚地区では低年齢児の受け入れが不足しており、施設統合の際に自園調理室を設置し低年齢児保育を開始します。

## 評価の視点

- 第1回・第2回のワークショップでいただいたご意見をもとに、再配置プランを検討していくための7つの視点を取りまとめました。今後、複数の再配置プラン案を比較する際の評価の視点として活用していきます。

視 点	内 容
① 多様な人々との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多世代交流ができる場は整備されているか。</li> <li>● 若い世代や外国人が集まる場所は整備されているか。</li> <li>● 地域への愛着を育む施設配置となっているか。</li> </ul>
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 低年齢児保育や延長保育など保育サービスは向上するか。</li> <li>● 児童クラブは利用しやすい施設配置となっているか。</li> </ul>
③ 子ども達の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども達の居場所・遊び場は確保されているか。</li> <li>● 子ども達の交流機会は確保されているか。</li> </ul>
④ 生涯現役でいられる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者のスキルを発揮できるような施設配置となっているか。</li> <li>● 退職後、農業や地域活動に参加しやすい施設配置となっているか。</li> </ul>
⑤ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通安全に配慮した施設配置となっているか。</li> <li>● 災害に強い施設配置となっているか。</li> </ul>
⑥ 利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アクセスしやすい施設配置となっているか。</li> <li>● 駐車スペースは確保されているか。</li> <li>● バリアフリーに配慮された施設は整備されているか。</li> </ul>
⑦ 効率的な施設配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。</li> </ul>

## 本日の検討内容

- ① 前回までのご意見とそれぞれの施設のグランドデザインをもとに、事務局で再配置プラン案を作成しました。再配置プラン案について確認したいこと、期待できること、不安なことはありますか。また、各々の案についてさらに良くするためのご意見はありますか。

- ② 今後これらの再配置プラン案を評価していきますが、その評価の指標として、皆様のご意見に基づく7つの視点を活用していきます。それぞれの視点の内容について、気になることやご意見はありますか。



## 次回ワークショップのご案内

「第4回大塚地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

### 1 日時

令和4年1月23日（日）

午後1時30分～午後4時30分

（受付開始時刻＊オンライン：午後1時 会場：午後1時15分）

### 2 お願い

- ご欠席の場合や会場（大塚中学校）での参加を希望される場合は、1月14日（金）までに事務局へご連絡ください。
- 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので、届きましたら資料に不足がないかご確認ください。参加の際に使用するZoomのID・パスコードも同封させていただきます。

### 【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

担 当：上田・尾寄・星野

電 話：0533-66-1214

ファクス：0533-66-1183

E-mail：k-mane@city.gamagori.lg.jp